

名刺サイズで1万円! 64ビットARMコンピュータの実力を探る

ご購入はこちら

三好 健文

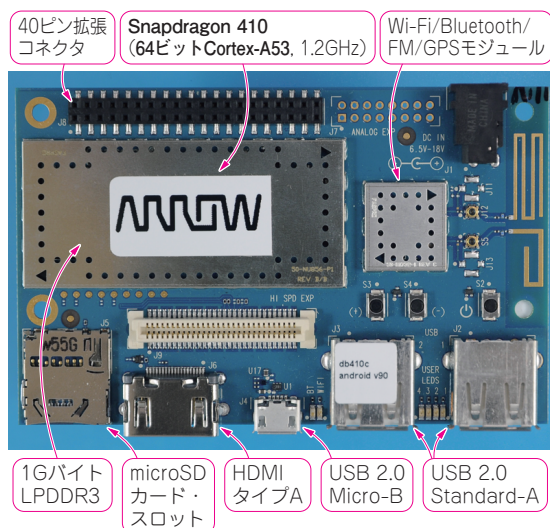


写真1 なんと1.2GHz動作の64ビットCortex-A53×4コア内蔵ARMプロセッサ基板DragonBoard 410c

表1 名刺サイズ64ビットARMボードDragonBoard 410cの概要

項目	詳細
プロセッサ	Snapdragon 410 (クアルコム), 4コア ARM Cortex-A53 (1.2GHz), Adreno 306 GPU (400MHz) 内蔵
メモリ	1Gバイト (LPDDR3, 533MHz)
ストレージ	8Gバイト (eMMC 4.51)
ビデオ出力	1080p@30fps HD
無線I/F	Wi-Fi 802.11b/g/n, Bluetooth 4.1
USB	USB 2.0 Micro-B (デバイス・モード) × 1, USB 2.0 (ホスト・モード) × 2
拡張コネクタ	40ピン低速用 (UART, SPI, I ² S, I ² C × 2, GPIO × 12), 60ピン高速用 (4レーン MIPI DSI, USB, I ² C × 2, 2レーン+4レーン-MIPI CSI), アナログ用 (ステレオ・ヘッドセット, ラインアウト, ラインイン)
その他	GPS (オンボードGPSアンテナ), microSDカード・スロット

なんと超高性能64ビットARMプロセッサを搭載した、名刺サイズの基板DragonBoard 410cが発売されました。チップワンストップなどから約11,000

64ビットARMコンピュータ・ボードDragonBoard 410c

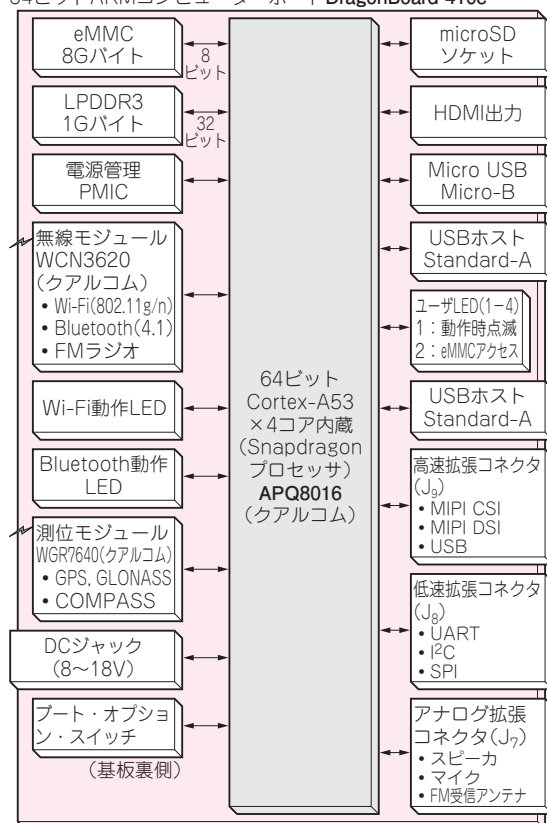


図1 名刺サイズ64ビットARMボードDragonBoard 410cの回路ブロック

円〜で販売されており、個人でも入手できるようになっています(写真1, 図1, 表1)。

搭載プロセッサは、スマホなどで使われるSnap Dragon (クアルコム) で、4コアの64ビットARM Cortex-A53 (1.2GHz) を内蔵しています。OSは、LinuxやAndroid, Windows 10 IoT Coreに対応しています(本誌2016年3月号では、Windows 10コンピュータ性能を確認してみた)。

それ以外にも、個人入手可能な64ビットARMプロセッサ搭載ボードが続々と企画されており、手の